

嘉手納町スポーツツーリズム基本計画

令和6年3月

スポーツデータバンク沖縄株式会社

目次

1. 事業概要	4
1-1. 基本計画策定の背景及び目的	4
1-2. 令和4年度の取り組み	4
1-3. 本町におけるスポーツ合宿・大会の開催実績	5
1-4. 本町におけるスポーツ施設の現状	6
2. 戦略的競技団体等の招聘及び可能性調査	8
2-1. 関係者へのヒアリングおよび招聘による可能性と課題	8
2-1-1. サッカー	10
2-1-2. ラグビー	11
2-1-3. ソフトボール	12
2-2. 施設ごとの現状及び課題、今後の方向性	13
2-3. プロ野球キャンプにおけるトップチームの可能性	18
2-4. 戦略的競技のキャンプ・合宿時の経済的波及効果	20

2-4-1. チーム使用予算(サッカー)	20
2-4-2. チーム使用予算(ラグビー)	21
2-4-3. チーム使用予算(ソフトボール)	21
2-5. 本町におけるアーバンスポーツの可能性	24
3. 町内のスポーツツーリズム受入体制の構築	26
3-1. 受け入れ体制整備 スポーツコミッションの役割	26
3-2. 町内の現状	26
3-3. 課題と今後の方向性	27
3-4. 求められる受け入れ体制	28
3-5. スポーツコミッション設立に向けてのスケジュール(案)	29
4. 誘致プロモーション活動	30
4-1. 今後の誘致プロモーション活動	30
4-2. 地域活性化について	31
4-3. 今後の検討事項	36

1. 事業概要

1-1. 基本計画策定の背景及び目的

嘉手納町は、令和4年度に「スポーツツーリズム基本構想」を策定し、国内外のプロスポーツチームの合宿や各種大会等の誘致に取り組む方針が策定されている。沖縄県内には国内外から多くのスポーツ団体がキャンプ・合宿を実施し、国内有数のスポーツキャンプ地となっており、観光振興や青少年の健全育成などチームを迎える自治体の地域活性化に大きく寄与している。

嘉手納町は既にスポーツドームや陸上競技場、兼久体育館など様々なスポーツ施設が集約されている。また、嘉手納野球場及び兼久体育館の建て替えが進行しており、スポーツ施設が今後益々充実してくる。新しく完成する施設を中心に多くの町民や観光客による多様な交流・賑わいのある町、スポーツを通じた観光拠点形成、観光誘客数の増加を図っていくことを目的とする。

1-2. 令和4年度の取り組み

令和4年度には「スポーツツーリズム基本構想」を策定し、スポーツを通じたまちづくり・地域活性化を総合的に推進するための取り組みを行った。また「今後の戦略的競技」と位置付けて、庁舎内検討会議において、経済的効果や社会的効果が高く、課題解決に向けて戦略的に誘致を図っていくスポーツをサッカー、ラグビー、ソフトボールの3つの競技に選定した。また、現在は野球場建て替えにあたり受け入れを中断しているが、2022年までプロ野球・横浜DeNAベイスターズ春季キャンプの受け入れ実績を有し、昨年度はベイスターズ・トップチームの可能性についてもヒアリングした。さらに、県内及び国内だけではなく、海外におけるスポーツツーリズムに関する動向や実態についても調査を行った。

当調査により、スポーツ施設を中心に宿泊施設及び医療施設など各種スポーツキャンプ・大会等の開催に必要な諸条件を確認することができた。県内のスポーツ施設の整備状況及び市町村や団体等の受け入れ体制の整備状況についても、先進地域の視察を実施し、チーム・団体の受入体制についても、将来的な受け入れ体制の受け皿となる、スポーツコミッション設立に向けた準備や各種検討を行った。

今年度は令和4年度に「今後の戦略的競技」として位置づけた各競技について、本町へのトッププロスポーツチームおよび団体の招聘を通じ、既存施設の視察を行い、施設の課題に対して各競技団体から得られた意見・要望を受けて今後の施設構想計画の参考とする。

1-3. 本町におけるスポーツ合宿・大会の開催実績

以下は直近数年間のうちに町内既存のスポーツ施設を利用した受け入れ実績一覧である。以前から継続する横浜 DeNA ベイスターズの 2 軍春期キャンプについては、1996 年から、2021 年まで継続して春キャンプを受け入れている実績がある。現在は野球場改修・新規建設にあたり受け入れを一時的に行っていないが、新野球場共用開始見込みとなる 2025 年春以降については、受け入れを再開する計画である。

年度	受け入れ先	実施期間・受け入れ人数
2018	韓国ロッテジャイアンツ	10/27～11/24・2/6～3/8(40 名程度)
2018	一関学院高等学校野球部	3/23～27(およそ 50 名程度)
2018	ホンダ女子ソフトボール部	2/26～3/4(およそ 30 名程度)
2018	東京女子体育大学陸上競技部	3/26～3/29(およそ 30 名程度)
2019	横浜 DeNA ベイスターズ(ファーム)	2/1～22(およそ 70 名程度)
2020	横浜 DeNA ベイスターズ(ファーム)	2/1～22(およそ 70 名程度)
2021	横浜 DeNA ベイスターズ(ファーム)	2/1～22(およそ 70 名程度)

上記以外、大学キャンプ、社会人(野球・ソフトボール、陸上)キャンプ受入を実施。トレーナー育成として、メジャーリーグのコーチ経験者が 1 週間の合宿を実施(野球場、スポーツドーム利用)している。2022 年 8 月 5 日～8 月 7 日の 3 日間、小学 1 年～中学 1 年を対象にサッカー FC バロセロナの「バルサアカデミーサマーキャンプ 2022」が嘉手納町陸上競技場で県内初開催され、近年プロアマを問わずにスポーツチーム等の大会が開催されている。今年度においては、以下 2 競技・各種スポーツ大会・教室も町内で開催されている。

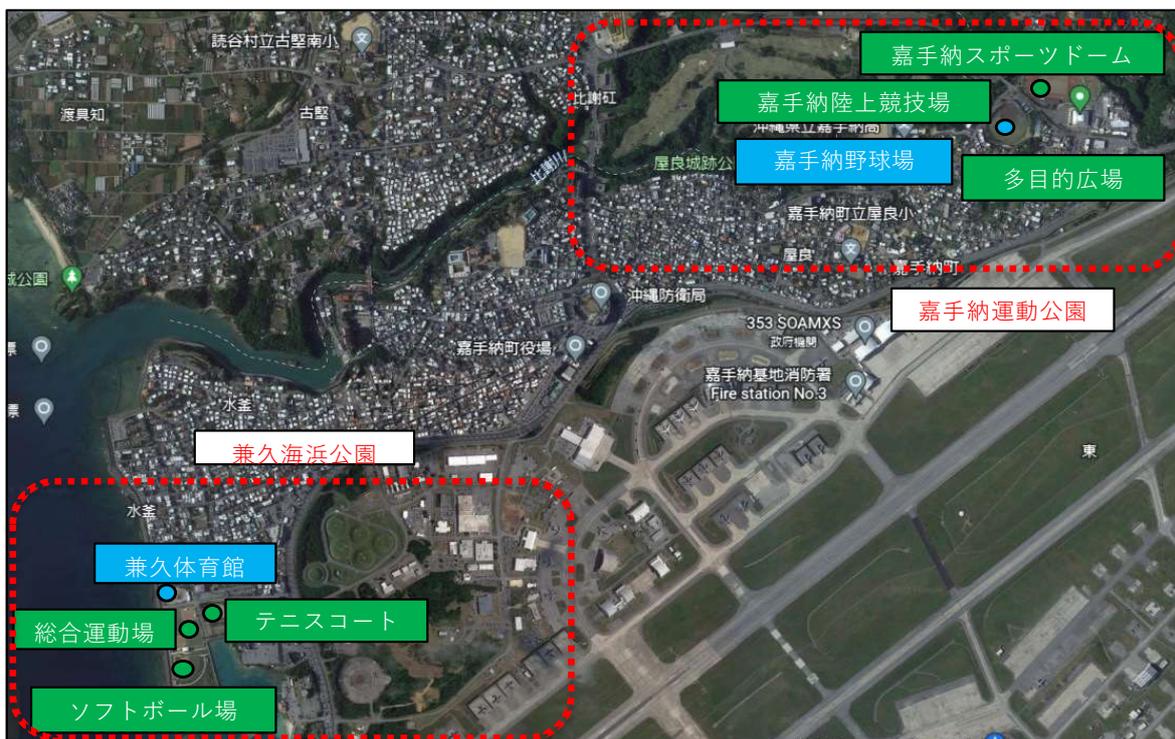
教室・大会名称	実施日時	実施場所	対象者・参加人数	主催
JR 九州 × bulls 沖縄ラグビーイベント	11/27(土)	ドーム	町内小学生・120 名(ほか保護者)	Bulls OKINAWA
4v4 リベンジャーズカップ 2023 in 沖縄	11/28(日)	陸上競技場	県内小学四年生以下(U-10) チーム数:24 チーム・人数:140 名 (その他保護者:約 200 名)	スポーツデータバンク沖縄(株)



1-4. 本町におけるスポーツ施設の現状

嘉手納町内には、スポーツドームや陸上競技場、野球場、体育館などを中心に以下施設を保有しており東西にコンパクトにまとまっている。以下の施設を有効的に活用し戦略的にトッププロスポーツチームのキャンプ・合宿の誘致を図っていく。

- 町内における各種スポーツ施設や公園の現状及びリニューアル中の施設マップ



エリア総称	位置	施設名
嘉手納運動公園	東エリア	①嘉手納町陸上競技上、②嘉手納町野球場、 ③嘉手納スポーツドーム、④多目的広場
兼久海浜公園	西エリア	⑤兼久体育館、⑥ソフトボール場 ⑦総合運動場、⑧テニスコート

名称	面積	収容人数	諸室・設備・駐車場	位置
①嘉手納町陸上競技場	19,400 m ²	メインスタンド収容:1,200人 芝スタンド収容:2,100人	シャワー室・会議室等 ナイター施設完備 駐車場:199台	東
②(新)嘉手納町野球場	両翼 :100m 中堅 :122m	約 3,000 席 スタンド:1,018 席 外野立見:1,525 席 3 階立見:426 席 車椅子、多目的、ホール席	スタンド:屋根有、 ナイター施設完備 ブルペン:一塁側:2レーン 三塁側:3レーン スコアボード:フルカラー(LED) 普通車:159台 大型車:4台	東
③嘉手納町スポーツ ドーム	10,734 m ²	地上2階 (高さ 24.58m)	トレーニングルーム(エアコン完備) ソフトボール用ピッチングマシーン フットサル用ゴール 駐車場:159台	東
④嘉手納町多目的広場	5,300 m ² 4,620 m ² (芝 生)	観客席としての設置なし	駐車場:ドームと兼用	東
⑤(新)兼久体育館	3,300 m ² アリーナ面積 1,891 m ²	地上 4 階建て (高さ 21.0m)	会議室、EV ホール、多目的室 トレーニング室、ランニングコース (160m) 駐車場 普通車:68台 大型バス:4台	西
⑥嘉手納町 ソフトボール場	13,593 m ²	観客席としての設置なし	ナイター設備完備(6基) 駐車場:兼久体育館と兼用	西
⑦嘉手納総合運動場	18,575 m ²	ソフトボール 2 面 少年野球 2 面		西
⑧嘉手納テニス場	5,439 m ²	無料・公共	砂入り人工芝×4コート ナイター施設完備(15基) 駐車場:兼久体育館と兼用	西

2. 戦略的競技団体等の招聘及び可能性調査

2-1. 関係者へのヒアリングおよび招聘による可能性と課題

- 招聘の概要・目的

以下の通り、今後の戦略的競技団体において、嘉手納町へ招聘を行った。

- 招聘したチーム及び競技団体

競技	サッカー	ラグビー	ソフトボール
チーム名	東京ヴェルディ	NEC グリーンロケッツ東葛	日本ソフトボール協会 JD リーグ
本拠地 所在地	東京都稲城市	千葉県・我孫子市	東京都・新宿区
過去 キャンプ地	静岡県・清水市 J-STEP 清水ナショナルトレーニングセンター	宮崎県・延岡市 延岡市西階総合運動公園 西階球技場	五輪出場に合わせ変更 (読谷村・群馬県高崎市)
招聘日時	①12/13(水) ②1/30(火)	・12/25(月)	・1/17(水)
招聘者	・代表取締役:中村 昭考様 ・強化部長:江尻 篤彦様 ・ホームタウン部 エクスペリエンス部試合運営 Gr ディレクター:川上 潤也様	・スポーツビジネス統括部 ヘッド S&C 高橋 健一様 ・ヘッドアスレティックトレーナー 仲達 陽貴様 ・スポーツビジネス推進本部 山崎 翔様	・(公財)日本ソフトボール協会事務局長 矢端 信介様 ・(一社)JD リーグ専務理事 JD リーグ大垣ミナモ 部長 栗山 利宏様
視察先	陸上競技場・スポーツドーム、ソフトボール場、兼久海浜公園 健康増進センター、比謝川自然体験センター		

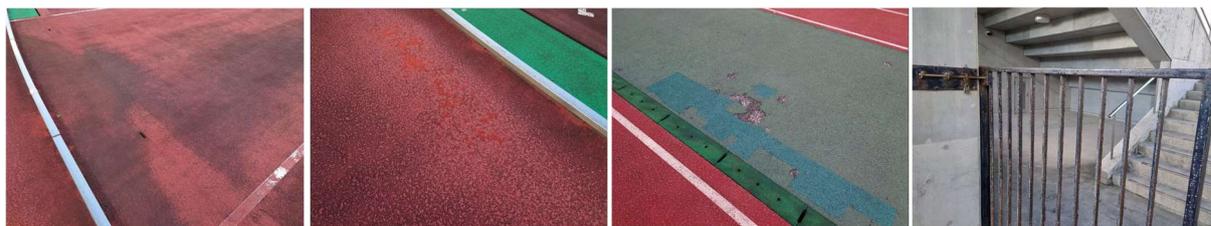
- 各施設の状況

陸上競技場・ソフトボール場は、今後、既存施設の有効的な活用が期待されるが、建設後30年近くが経過しており、老朽化が見られる。

【課題】

- 嘉手納陸上競技場は共用開始から約30年、嘉手納ソフトボール場は約40年以上が経過している。
- 施設において、陸上競技場ではフェンス・トラックなどに傷・破損が見られ、ソフトボール場ではラバーフェンスの剥がれや緩衝材の経年劣化・ベンチ内の壁部分の捲れや穴あきなどが生じている。施設補修や修繕が複数箇所において求められ、安全面の確保も求められている

施設名	共用開始	施設改修	改修工事箇所
陸上競技場	1995年5月	2010年度	トラック改修・フィールド内改修



施設名	共用開始	施設改修	改修工事費
ソフトボール場	1984年4月	2009年度	フェンス等改修工事



2-1-1. サッカー

- 現状課題

- ・東京ヴェルディ関係者から挙げた点である。

施設 対象箇所	内容
陸上競技場 (サイズ・芝)	<ul style="list-style-type: none"> ● ピッチ部分のサイズが推奨規格より小さく、フル面を確保できない ● プロはピッチ環境(芝の質含)が最優先事項、現状ではキャンプ不可 ● 規格に加えて余白があると使いやすい (1.5 面程、2 面あればベスト) ● 防球ネットがより高い(北西方向)と望ましい <p>【参考: サッカーフィールドサイズ(FIFA 推奨)】 105m × 68m (国内殆どのスタジアムが同サイズ)</p>
クラブハウス	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状はシャワー(ドーム内には設置)、入浴施設が整備されていない ● 二部練習では昼にホテルに戻る為、宿舎との移動距離は重要、移動 30 分(≒2 往復 2 時間)はロスが多い
スポーツドーム	<ul style="list-style-type: none"> ● 陸上競技場に隣接しており、雨天時に活用できるのは高ポイント ● LED 照明を設置しており夜間等の自主練習も対応可能 ● 芝のクッション性が素晴らしく、多目的施設としては最適
トレーニング ルーム	<ul style="list-style-type: none"> ● スペースが狭い ● 器具の種類が古い(既存ウエイト器具はあまり使用しない)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 夜の練習に備えたナイター照明環境は整備(LED 照明)、夜間自主練習も対応可能 ● 那覇空港から 1 時間以内とアクセス良好 ● 2026 年～秋春制移行後、ウインターブレイク(1 月～2 月末)におけるキャンプ拠点の早期検討

2-1-2. ラグビー

● 現状課題

以下は視察時に NEC グリーンロケッツ東葛関係者から挙げた点である。

施設 対象箇所	内容
陸上競技場 (サイズ・芝)	<ul style="list-style-type: none"> ● 規格(100m×70m)以上のフィールドは必須 ● 規格に加え、幅・奥行とも10m以上は余白が必要(トライのエリア含) ● 規格以上の余白部分は人工芝(後付)等でも対応可能 ● 現状の芝は雑草が多く好ましくない、サッカーよりも長めの芝を好む ● プロレベルの試合後2週間は、養生の為サッカーの試合開催不可 ● 1面あれば芝を傷めないよう全体練習やユニットごとで練習可能
クラブハウス	<ul style="list-style-type: none"> ● 施設内に浴室希望(最近のスタジアムはアイスバス用の浴室完備)
スポーツドーム	<ul style="list-style-type: none"> ● 雨天でも練習拠点として本施設が使えるのは素晴らしい ● ドーム内倉庫や外にテントを張りウエイトトレーニング拠点として活用可能 ● アップや休憩、レクリエーション等でも活用したい(重機は設置困難)
トレーニング室	<ul style="list-style-type: none"> ● マシンよりもフリーウエイトを利用、重いダンベル等も更に必要 ● エアロバイク、ローイング(有酸素系)も必要 (外部業者よりレンタル、民間施設の利用も選択肢)
その他	<ul style="list-style-type: none"> ● 病院の有無(特に整形外科と脳神経外科、内科・眼科も常にリストアップ) (総合病院希望) ● 温水プールはリハビリやリハビリ目的で利用 ● 宿舎(視察時はアンサリゾート)とグラウンドの距離が遠い ● 二部練習では昼に一旦宿舎に戻るが、クラブハウス内で入浴、食事、休憩場所等が確保できれば宿泊施設に戻らない選択肢も

2-1-3. ソフトボール

- 現状課題(ソフトボール場)

ソフトボール関係者から以下の課題が挙げられた点である。

施設 対象箇所	内容
ソフトボール場 ・防球ネット ・フェンス ・バックネット ・各種備品	<ul style="list-style-type: none"> ● 現状ネット仕様では合宿を誘致することが厳しい。安全面や練習環境に適していない状況である。(フェンスの劣化や芝の状態が悪い)に未対応である ● 飛球用やベンチ前ネット、各種ネット(L字ネット、Tネット)の必要性 ● ベンチの広さ:大会、試合におけるベンチの拡充が求められている ● 備品保管用倉庫 ● ナイター照明設備の必要性
クラブハウス 各種諸室	<ul style="list-style-type: none"> ● 食事(チームにより管理栄養士が帯同する)・休憩スペース マッサージ用ベッド・着替え用ロッカー等の諸室の確保
トレーニング室	<ul style="list-style-type: none"> ● トレーニング室の広さが狭い(ストレッチ、各種トレーニング用エリア) ● トレーニングエリア内への鏡の設置 ● 男子選手ほど、女子選手はウエイトトレーニング機器を利用しない
練習環境 周辺施設 移動手段 インセンティブ	<ul style="list-style-type: none"> ● 代表合宿においては、メイングラウンド、サブグラウンド、フィットネス施設、室内練習場、隣接する病院が必要である ● 代表チームは基本的に内野、外野を分けて練習する ● 移動手段:ホテル側からマイクロバス提供(2台)を受けている ● 宿泊費用に対する自治体による補助金・助成金 ● 施設利用料の自治体による減免措置 ● 町やホテルからの歓待セレモニーやホスピタリティー(受け入れ対応)
広域連携	<ul style="list-style-type: none"> ● 県単位によるコンベンションでの連携推進 ● 読谷村の宿泊施設の利用、各種施設の相互の連携
新野球場	<ul style="list-style-type: none"> ● 新野球場について、ジュニア世代強化やU18国際大会開催・会場としての利用することが可能。 ● LED照明等が備わった、建て替え中の野球場は素晴らしい施設であり、夜間の利用だけではなく、ソフトボール競技の大会・公式戦についても利用可能である。

2-2. 施設ごとの現状及び課題、今後の方向性

▼陸上競技上

・フィールドサイズ拡充

芝生の養生期間も考慮しながら練習が可能な環境の 1.5 面程の広さが求められる。

※参考：サッカーフィールドサイズ(FIFA 推奨)：105m×68m

※参考：ラグビーフィールドサイズ(規格)：100m×70m 以上必須

・芝生仕様の改修

サッカーとラグビーの誘致は、プロ仕様、ラグビー(11月誘致)のキャンプ実施後、養生期間として試合後2週間はサッカー(1月誘致)の試合開催が不可であることから、芝生のメンテナンス方法について検討する必要がある。

・ネット設置

区画整理がされている環境はあるが、安全上からネットの高さが低い点は改善点である。ネットは台風に備えた仕様、設置後の安全な利用についても検討が必要である。

・ナイター照明

実施時期やチームにより異なるが、リーグワン・J1リーグで現在キャンプを実施する多くのチーム練習は午前・午後の2部練習体制となっていることや、夜間自主練習に対応可能なナイター設備(LED照明など必要な照度が前提)についても設置が求められる。

・水廻り(シャワー・トイレ)

陸上競技場内、トイレは洋式(ウォシュレット付)であること。ラグビーは練習後の入浴においても、交代浴という疲労回復を促すメニューにより、水廻り環境のニーズはより高まっている。

▼トレーニング室

- ・既存規格ウエイト器具だけではなく、フリーウエイトを利用した重いダンベル等が競技により更に求められる。
- ・重たいウエイト器具を利用するため、耐震の観点からトレーニング室の設置場所は2階より1階への設置が最適である。
- ・エアロバイク、ローイング(有酸素系)についても競技により必要になってくる。また、クロスフィット、ロープ・トレーニングチューブ、コンディショニング調整を目的としたストレッチやフィジカルトレーニング、体幹トレーニングなど、ダイナミックな動きが可能であるトレーニングスペースが必要である。当スペースには選手の全身が映る鏡の設置が求められる。
- ・リカバリーやトレーニング終了後に使用するための、製氷機の貸し出し、酸素カプセルといった、リカバリー型機器・器具の設置が求められる。これらは町民利用においても他施設との差別化になる可能性がある。

▼ソフトボール球場

・防球ネット・フェンス

防球ネット、フェンスは安全面において、場内全体、バックネット、ベンチ前と各箇所に対応した対策が必要である。場内全体とバックネットには、施設の外にボールが飛び出さないような、高さであること、ベンチ前には、選手への直撃を避けるため、檻状のネットで囲う必要がある。一部のネットは買い替えやメンテナンスも求められる。

・ベンチの改修・拡充

トップチームの大会や試合には、搬入した荷物等の設置先としても利用するため、選手の人数以上の座席に伴う広さが求められる。

・クラブハウス

ソフトボール場に隣接する施設として、クラブハウスがあると望ましい。食事・休憩・更衣、医療ベット等、利用目的や用途は様々である。長机・椅子など備品も必要である。クラブハウスはプレハブを利用するなど、常設である必要はなく、チームが使用する道具の保管が可能な倉庫も備わっていると好ましい。

- その他誘致するための方向性(陸上競技場・ソフトボール場以外)

- 宿泊施設の誘致について

近隣地域(読谷村・北谷町・沖縄市)には大小規模の様々な宿泊施設があり、各自治体においても積極的にスポーツコンベンションによる利用を推進している。中長期的には本町も宿泊施設の建設についての検討が必要になるが、短期的にはコンベンション受け入れの実績が豊富である。近隣地域と広域連携についても検討を行うことが求められている。

スポーツツーリズムを推進するためには、経済効果の高い宿泊施設の誘致の検討である。キャンプ・合宿中の50%は宿泊費による消費であるという調査結果から、宿泊施設誘致に向けた取り組みが求められている。

- クラブハウス建設の検討

陸上競技場およびソフトボール場とも効率の良いキャンプ・合宿の運営を実施するためには、施設と併設するクラブハウス機能を備えた施設が求められている。施設の中では、食事、更衣、シャワーや入浴、休息等を行っている。近年スタジアムにはクラブハウスが併設される傾向にある。また、一部宿泊施設の機能を補完できる可能性があり、短期的に本町の課題を補う施策となる見込みがある。

- 新野球場の利用

ソフトボール関係からトップチームのキャンプ・合宿の条件を満たす施設として、新野球場が利用可能である意見が得られている。また、トップリーグの公式戦開催や代表チームの合宿利用の可能性についても同様であり、近隣施設にはない、ナイター設備があり、誘致の可能性はある。今後誘致するにあたり、L字ネット、T字ネット、間仕切り用ネットなどの備品の追加購入の検討が必要である。

- 健康増進センター(温水プール)

温水プールは練習休息日のリハビリやリハビリ等、身体を軽く動かす為に個人単位で活用する。当施設には、町民利用の点から歩行専用コース、泳ぐコース、自由コースなどが設けられている。町民利用の少ない時間帯を工夫して使用することなどで、施設の有効的な利用が検討できる。なおチームドクター・トレーナーは怪我中の選手へのサポート対応を中心に1チームから3人程度がキャンプ・合宿へ帯同する。

- 比謝川自然体験センターの利用

本町には沖縄市、嘉手納町、読谷村など沖縄本部中部にまたがり、沖縄本島で最大の流域面積を持ち、緑豊かな自然に恵まれた河川である比謝川がある。比謝川では波や風の影響を受けにくく、流れが穏やかなため、他のマリンアクティビティに比べ開催率が高いカヤック・カヌー・SAPを使った体験アクティビティを取り扱う。近年、チームビルディングのニーズが高まり、社員研修などにも当観光サービスが利用されている。チームのニーズや希望に応じ、テーマ設定・実施時間をカスタマイズ可能であり、アクティビティ前の作戦会議、陸上から水際まで器具の運搬など、様々なチームビルディング要素が詰まっている。修学旅行や社員旅行・社員研修向けプログラムをスポーツ団体向け体験型商品に開発することは、新たな観光プログラムの創出に繋がり、ラグビーチームより合宿時にチームビルディングのトレーニング希望が挙がり(自衛隊での軍隊トレ経験有)チームによる地域(観光)貢献の一環としても、チームビルディングの活動を比謝川自然体験センターでスポーツ団体向けに提供することを検討する。

- 健康増進センターの利用(温水プール)

温水プールは練習休息日のリカバリーやリハビリ等、身体を軽く動かす為に個人単位で活用する。当施設には、町民利用の点から歩行専用コース、泳ぐコース、自由コースなどが設けられている。町民利用の少ない時間帯を工夫して使用することなどで、施設の有効的な利用が検討できる。

- ジュニア大会の誘致

ソフトボール競技は、2020 東京オリンピックで金メダルを獲得したが、2024 パリオリンピックでは採用外となっている。2028 ロサンゼルスオリンピックでは正式採用として復活しており、「Road to LA28」と掲げ、今後次世代の中長期的な強化・育成が行われる。国からは「次世代アスリート育成強化事業」という予算も生まれ、連続金メダルに向けたジュニア大会開催についても、強化を目的として今後検討される可能性がある。

・各競技団体と地域との連携について

キャンプ・合宿期間中の交流は、こどもたちがトップアスリートを身近に感じる機会である。この機会は青少年の健全な発育発達・心身の育成に資するものである。青少年だけではなく、年齢を問わず、地域住民にとって、スポーツの振興とこれによる地域の活性化に影響を与え、チーム側も競技普及、ファン獲得に繋がる可能性があり、地域貢献活動としての連携が期待できる。具体的には、地域の小中学生向け各種教室、住民向けプログラムの開催。社会貢献活動や地域連携活動として、ラグビではホームタウン限定で実施しているタグラグビー教室を小学校にて実施する案が意見として挙がる。サッカーではチームと連携して小中学生向けサッカー教室、ジュニア世代のサッカー大会開催・誘致、指導者向け講習会、チームの栄養担当者と連携した子ども・保護者向け食育講座などが考えられる。その他に、コンディショニングトレーナー、チームドクター・トレーナーと連携した町民向け健康増進プログラム企画など、地域住民の健康増進に資する取り組みに繋げることができる可能性がある。

・町やホテルからの歓迎・ホスピタリティー

キャンプ・合宿において、地域住民、宿泊施設からの歓迎は選手のモチベーションアップの一助となる。他市町村においては、歓迎セレモニーなどが開催されている。その他、施設以外の点で、地元企業からの特産品等の差し入れなど、町全体から歓迎ムードは、チームが将来的に同地域でキャンプ・合宿を継続するにあたり、チームと町の関係性構築にも繋がる。

・宿泊費用の補助・助成金制度や利用料減免の仕組みづくり

競技毎・チーム毎のキャンプ・合宿期間は様々であるが、最小 1 週間から最大 3 週間、20 名から 70 名程度が比較的長期間に渡り地域に滞在する。その際、宿泊費はチーム側にとって最も大きな支出である。近年はキャンプ・合宿を行うスポーツ団体に助成金・補助金を設けている自治体が増えている背景がある。条件や補助の範囲は自治体によって異なるが、チーム側にとっては、助成や補助金制度を利用することで合宿料金の低減化を図ることができる。一方で自治体側にとって、宿泊費は最も経済効果が高い要素であることから、チーム側は自治体が設ける制度を活用し、自治体側は補助金・助成金制度を策定し、本町でキャンプ・合宿を実施する条件(スポーツ合宿が指定施設において開催・指定エリアの宿泊施設を利用・述べ宿泊人数を設定)を決めることで、合宿誘致の推進を図る。また、地域貢献活動として、チームは、合宿期間中に市内の競技団体等との交流試合、スポーツ教室または指導者講習会等の地域住民に還元できる交流事業を補助事業として行うことも将来的に検討する。

2-3.プロ野球キャンプにおけるトップチームの可能性

● プロ野球キャンプ地及び各チームの最新の動向

2024 年も県内外においてキャンプが開始した。沖縄県内には、日本のプロ野球チームが 14 カ所(1 軍 9 球団、2 軍 5 球団)に集結した。韓国からも現在の 2 球団に加え、後から 2 球団が来沖することになっており、以下各チームのキャンプが実施された。キャンプにより多くの町民や県内外からの観光客による多様な交流・賑わい等活動を通じて地域の活性化を図ることができ、各地域で様々な取組みがされる。

沖縄・1 軍(9 球団) 2 軍(5 球団)	
・ 読売ジャイアンツ(後期)	
・ 東京ヤクルトスワローズ	
・ 広島東洋カープ(後期)	
・ 中日ドラゴンズ横浜 DeNA ベイスターズ	
・ 阪神タイガース	
・ 東北楽天ゴールデンイーグルス	
・ 北海道日本ハムファイターズ	
・ 千葉ロッテマリーンズ(前半)	
・ 千葉ロッテマリーンズ(後半)	
・ 阪神タイガース(2 軍)	
・ 千葉ロッテマリーンズ(2 軍)	
・ 東北楽天ゴールデンイーグルス(2 軍)	
・ 中日ドラゴンズ(2 軍)	
・ 北海道日本ハムファイターズ(2 軍)	
・ 韓国プロ野球球団(4 球団)	



昨年日本一に輝いた、阪神タイガース宜野座で初の土曜日だった 3 日は約 7000 人を集客しており、日本一効果が表れた。同県の「スポーツアイランド沖縄」構想も第 2 期に入っているが、プロ野球キャンプ誘致を「アウター施策」と定める。ここ数年の経済効果推移から、2023 年の経済効果は 101 億 5300 万円で 3 年ぶりに 100 億円超えた。コロナ禍で無観客だった 2021 年(23 億 6600 万円)を考えれば V 字回復した。

沖縄県では今も NPB 以外のアジア近隣国からキャンプ実施の申し入れを受ける。しかし、現状では県内でキャンプができる球場が少なくなっている事情がある。本町においても新野球場の整備が進んでいる。県は昨春キャンプで好評だった「スタンプリー」、各自治体との「コラボレーショングッズ」など、沖縄キャンプ独自の商品・企画に力を入れている。

(引用: 日刊スポーツ.2024 年 2 月 5 日)

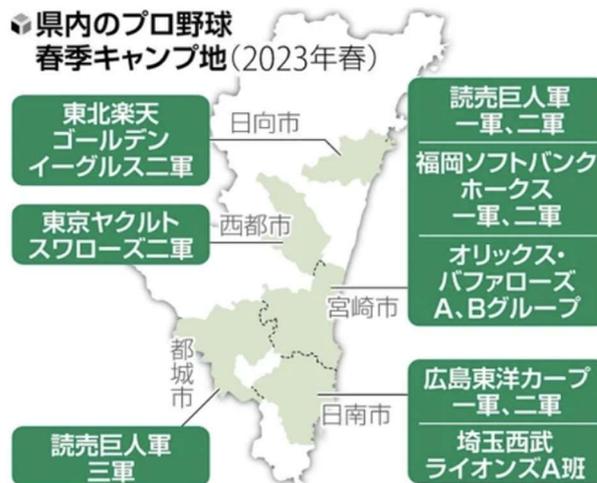
(引用: 文化観光スポーツ部・スポーツ振興課 | 案内用パンフ制作(マップ・予定))

● 県外キャンプ地の動向

沖縄県と並んでキャンプ・合宿地としてスポーツを通じた交流を行う宮崎県について。その中でも宮崎県日向市は今後更なる誘致を見据えて球場改修に着手している。宮崎市や日南市など県南部だけではなく、北部の受け入れにより、全県をあげての取り組みに展開が広がっている。以下は各チームのキャンプ地である。

宮崎市観光協会は3球団のキャンプ地周遊・無料バス「三球シャトル」の運行を実施

宮崎・1軍(5チーム) 2軍(5チーム)	
・	読売ジャイアンツ(前期)
・	広島東洋カープ①②
・	福岡ソフトバンクホークス
・	オリックス・バファローズ AB
・	埼玉西武ライオンズ A
・	
・	読売ジャイアンツ②
・	東京ヤクルトスワローズ②
・	東北楽天ゴールデンイーグルス②
・	読売ジャイアンツ③



■木花ルート(SOKKENスタジアム⇄サンマリンスタージアム)

A	SOKKEN発	サンマリン着	サンマリン発	SOKKEN着
①	10:30 ⇒	10:55	11:05 ⇒	11:30
②	11:40 ⇒	12:05	12:15 ⇒	12:40
③	12:50 ⇒	13:15	13:25 ⇒	13:50
④	14:00 ⇒	14:25	14:35 ⇒	15:00
⑤	15:10 ⇒	15:35	15:45 ⇒	16:10
⑥	16:20 ⇒	16:45	16:55 ⇒	17:20

宮崎県は2024年度当初予算の編成方針の中で「プロチームキャンプ数の日本一」を掲げている。日向商議所では3年前、新たなキャンプ受け入れによる市への経済効果を約3億7000万円と算出。現在、日向市はお倉ヶ浜総合公園野球場の改修工事を計画している。宮崎では秋季教育リーグ「みやざきフェニックス・リーグ」が実施されており、日向市も以前は開催会場であったが、1978年に建設された同球場は老朽化が目立ち現在は開催されていない。改修は工事費で総事業費約18億5000万円をかけ、本部棟や投球練習場の建て替え、両翼の拡張、スコアボードの改修などを行う。2025年の共用開始を目指している。市は医療機器メーカー「メディキット」(東京)創業者で日向市出身の中島弘明氏と国からの交付金を活用する。(引用:読売新聞オンライン.2023年10月30日)

2-4. 戦略的競技のキャンプ・合宿時の経済的波及効果

2-4-1. チーム使用予算(サッカー)

令和5年春に沖縄県内他自治体で実施した関東圏Jリーグ2クラブ(J2所属)におけるスプリングキャンプの支出を以下に示す。全支出の内、宿泊費(食費含)が8割以上を占め、その他は交通費やランドリー利用料、施設使用料等が含まれる。

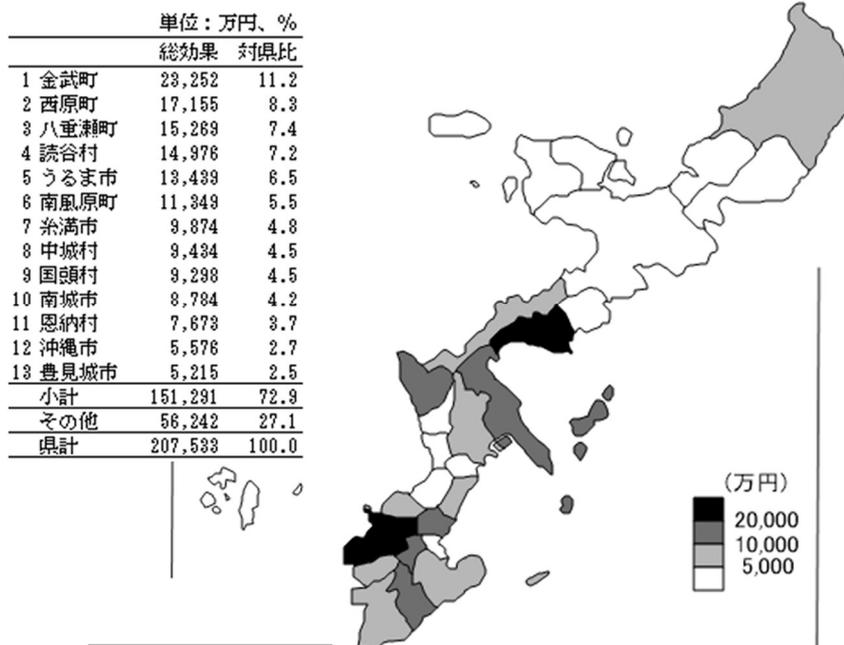
	東京都某 Jリーグクラブ	埼玉県某 Jリーグクラブ
期間(日数)	8日間	8日間
人数	60人(内、選手38人)	60人(内、選手35人)
キャンプ実施に係る支出(沖縄往復の渡航費は含まず)		
宿泊費(食費含)	9,500,000円	6,502,500円
交通費	バス2台 1,100,000円 レンタカー5台 320,000円	(ホテルのマイクロバス利用) レンタカー3台 650,000円
ランドリー利用料	-	448,000円
施設使用料	215,880円	262,880円
支出合計	11,135,880円	7,863,380円

(当社調べ・関係者ヒアリングによる)

令和5年春のサッカーをキャンプ受け入れている県内13市町村における経済効果について、受け入れ市町村別の効果をみると、金武町の直接効果2億2,507万円、総効果2億3,252万円が最も大

きく、周辺設備の整備効果が発揮されたもので、練習環境の良さなどから、J1の2チームの他、なでしこ・大学等4チームの計6チームの利用となっている。西原町、八重瀬町、読谷村、うるま市、南風原町が1億円以上の総効果となった。

図 市町村別経済波及効果(生産誘発額総効果)



(参考:一般財団法人南西地域産業活性化センター発表資料)

2-4-2. チーム使用予算(ラグビー)

2019年に日本にてラグビーワールドカップ開催に際し、大阪府堺市が4か国(イタリア・アメリカ・トンガ・ジョージア)の公認チームキャンプ地となった。堺市におけるキャンプ誘致の経済波及効果は約1億2,900万円、粗付加価値創出は約6,000万円。

本経済波及効果はチーム滞在期間中に限定した効果である。滞在したチームの選手・コーチや堺市を訪れた来場者等がリピーターになり、また堺市を訪問すれば、経済効果はさらに大きくなると見込まれる。また、消費支出額は以下の通り、計約1億3,250万円である。

支出項目	金額
堺市の支出	3,868万円
来場者の消費支出	6,534万円
選手・コーチ等の消費支出	2,932万円
報道関係者の消費支出	97万円
合計	1億3,250万円

支出項目	金額
警備関連	645万円
運営関連	157万円
施設利用料	717万円
施設整備関連	1,605万円
トレーニング器具関連	200万円
事前手続き関連	5万円
レセプション関連	317万円
ラグビー教室関連	41万円
宿泊費・飲食費	5,552万円
交通費	1,338万円
娯楽サービス費	40万円
買物代	1,855万円
その他	779万円
合計	1億3,250万円

(参考: 堺都市政策研究所発表資料)

2-4-3. チーム使用予算(ソフトボール)

三重県熊野市では、昭和50年代からソフトボール合宿地の聖地として知られる。全国高等学校総合体育大会のソフトボール開催地となった平成30年度には、試合や合宿のために宿泊したスポーツ宿泊者数が、4万人を超えた。交通アクセスや宿泊施設、スポーツ施設等の面では必ずしも恵まれていない中で、今後、更にスポーツ合宿・大会の適地としての付加価値を高めるため、行政とともに、宿泊業者、弁当業者などスポーツ選手の食に関わる関係者が一体となり、地元食材を活かしたスポーツ選手向けの弁当開発を行うなど取組を強化している。

最近では令和5年夏、国内団体に留まらずソフトボール女子の台湾代表チームも熊野市にてアジア競技大会に向けた強化合宿を実施した。

	平成18年(2006年)	平成30年(2018年)
スポーツ集客	15,768人	40,200人
直接効果	約2億4,500万円	約5億9,800万円
経済波及効果	約3億5,000万円	約8億3,100万円



(参考: 熊野市マイ広報紙・中日新聞)

● ホテル建設に係る経済効果(単純集計・試算)

以下は、「今後の戦略的競技」の関係者へヒアリングを行った際、キャンプ・合宿期間(日数)、チームに帯同する人数、より算出した宿泊による経済効果の単純集計結果である。

* 近隣地域宿泊施設の宿泊費を参考とした試算

項目／競技	サッカー	ラグビー	ソフトボール	野球
期間(日数)	8日間/年	8日間/年	14日間/年	21日-28日間/年
人数	60人(内、スタッフを含む)	80人(内、スタッフを含む)	30人(内、スタッフを含む)	100人(内、スタッフを含む)
交通費手段	バス2台	バス3台	バス1台	バス3台
宿泊費(試算)※1	4,224,000円 /¥8,800(泊)	5,632,000円 /¥8,800(泊)	3,696,000円 /¥8,800(泊)	18,480,000円(min) 24,640,000円(Max) /¥8,800(泊)

* (参考)近隣地域の宿泊施設の部屋数および客室単価

エリア	宿泊施設名	部屋数	客室単価
うるま市	アンサ沖縄リゾート	洋室:123室	ツイン:¥8,800(※2) シングル:¥15,400
	春日観光ホテル	洋室:47室	ツイン:¥7,700 シングル:¥8800(※2)
読谷村	ロイヤルホテル 沖縄残波岬	洋室:414室 和室:40室	ツイン:¥15,000~33,000
	グランディスタイル 沖縄読谷 ホテル&リゾート	洋室:54室	ツイン:¥30,000~42,000

※1 当社調べによる宿泊費:客室単価(※2)×期間(日数)×人数 により算出

※2 当社調べによる客室単価

さらに、スポーツ合宿に係る宿泊施設の経済波及効果の算出に関しては追加調査・追加ヒアリングが必要(飲食・ランドリー利用料・施設利用料など)になる。その他、バスレンタル、レンタカー、個人消費は含まれていない。また、副次的な効果として宿泊施設の建設による雇用創出も期待される。

サッカーキャンプにおける沖縄県全体の経済効果

令和5年春に沖縄県内で実施されたサッカーキャンプについて、Jクラブや大学など24チームが合宿入りし、経済波及効果は前年比3.7倍の20億7700万円。

キャンプ参加人数は、全参加チームの選手・スタッフ合わせて約1,163人、平均宿泊日数は11.8泊13.0日で、総人泊数は12,870人泊。

(観客数は概ね48,365人。内、県外からの観客数は概ね7,030人と推計)

単位：百万円

	経済効果 (生産誘発額)	粗付加価値 誘発額		雇用者 誘発数
			雇用者所得 誘発額	
直接効果	1,191.1	250.4	120.4	—
間接1次生産誘発効果	719.9	340.0	164.0	—
間接2次生産誘発効果	166.2	106.3	40.4	—
総効果	2,077.3	696.6	324.8	174人
波及効果(波及倍率)	(1.7) = 総合効果/直接効果			
前年(2022年)の経済効果	559.8	186.1	87.1	47
※対2023年比	3.7	3.7	3.7	3.7
2020年1月時の総効果	3,357	1,768	765	318
※対2023年比	0.6	0.4	0.4	0.5

(参考：一般財団法人南西地域産業活性化センター発表資料)

● プロ野球キャンプにおける沖縄県全体の経済効果

プロ野球キャンプの経済効果は新型コロナウイルス移行、3年ぶりに100億円台に回復。延べ観客数は約37万9,000人となり、前年(1万4,000人)から232.5%増。うち県外からの観客数は約4万9,000人と推測された。

選手・スタッフ 延べ人数	キャンプ期間中 来場者総数	県外来場者数	直接支出額の総計
1,100人	379,000人	49,000人	101億5,300万円

参考：2022年直接支出額の総計：43億4,700万円、2022年来場者総数：114,000人

(参考：琉球新報)

プロ野球春季キャンプは、観光のオフシーズンに多くの観客や関係者が来沖し消費活動を行うことから県経済に与える影響は大きい。経済効果の最大化を目指すにあたり、観光消費額の大きい県外客の誘客および消費行動を促すことは重要である。また、地元飲食店や土産品店の出店促進に加え、導線を意識した会場づくりなど、キャンプ地の賑わい創出及び来場者の消費行動を促す仕掛けづくりに取組む必要がある。

2-5.本町におけるアーバンスポーツの可能性

● 県内の動向

アーバンスポーツについては東京 2020 オリンピック以降、全国的にスケートボードパークの新しい施設の建設が続いている。県内には既に20ヶ所のスケートボードパークエリアが存在している。さらに数年内に那覇市、沖縄市、名護市において、新規施設の建設が計画され、その中でも官民連携の公募による公園整備の計画が注目されている。

以下は県内の既存施設である。地図は県内に新規建設が計画されている位置情報である。

No	名称	エリア	備考
1	新都心公園 スケートパーク	那覇市街	公共・無料・ナイター
2	具志川スケートボードパーク	うるま市	公共・無料・ナイター
3	うるま市与那城総合公園 スケートボード場	うるま市	公共・無料
4	豊崎にじ公園 スケートパーク	豊見城市	公共
5	南風原スケートパーク	尻群南風原町	有料・ナイター
6	砂辺馬場公園 スケートパーク	北谷町	無料・公共
7	いこいの市民パーク スケートボード場	宜野湾市	無料・公共
8	スケートパーク南城【SOUTH PARK】	南城市	無料・公共
9	読谷村役場 仮設スケートボード場	読谷村	無料・公共
10	ANA SPORTS PARK 浦添 スケートボード場	浦添市	無料・公共
11	コザ運動公園 KOZAPa !	沖縄市	無料・公共
12	白川街区公園 スケート広場	沖縄市	無料・公共
13	美里公園 スケートパーク	沖縄市	無料・公共
14	石川公園 スケートパーク	うるま市	無料・公共
15	21世紀の森公園	名護市	無料・公共
16	金武スポーツ広場	金武町	無料・公共
17	カママ嶺公園スケートパーク	宮古島	無料・公共
18	SKATE CLUB ORION	沖縄市	屋内
19	沖縄県総合運動公園 所定エリア	沖縄市	無料・公共
20	ぎのわん海浜公園 所定エリア	宜野湾市	無料・公共



漫湖公園の官民連携事業	コザ運動公園高架下・スケボ場整備	スケートパーク構想
①那覇市	②沖縄市	③名護市
<p>共用開始時期: 2025 年</p> <p>(2024 年度から設計・工事) 公園全体。全体面積: 43.9ha</p> <p>公園整備に P-PFI などの民間活力を導入。利用者ニーズに応じてエリアを 5 分割。</p> <p>鏡原地区はアーバンスポーツエリア、カフェエリア</p> <p>年間維持費: 約 1.9 億円 (市管理 170 公園)</p> <p>新都心公園: 年間 4,600 万円</p>	<p>共用開始時期: 2026 年</p> <p>(2025 年度から着工開始) 公園全体全体面積: 43.9ha</p> <p>整備基本計画によると、計画地区東側の 3 区画は以下 スケートボード・BMX 区画 西側 2 区画はスポーツクライミング・パルクール区画、3×3 区画を配置</p> <p>上限予算額: 3,756 万円</p>	<p>共用開始時期: 2025 年</p> <p>沖縄最大級のアーバンスポーツ施設、2025 年度にイオン名護店裏側の駐車場にスケボーや BMX や 3×3</p> <p>沖縄市は大会やイベントなどを誘致し、スポーツを通じて北部地域の振興に</p> <p>内閣府 2023 年度 北部振興事業: 2.5 億円</p>

○今後の方向性

県内にはアーバンスポーツの新施設の計画・検討が各地で進んでいるため、要性を見直し、民間事業者との連携の可能性を前提に、県内の動きを見ながら建設を検討する。

3. 町内のスポーツツーリズム受入体制の構築

3-1. 受け入れ体制整備 | スポーツコミッションの役割

スポーツと景観・環境・文化などの地域資源を掛け合わせ、戦略的に活用することで、まちづくりや地域活性化につなげる取組が全国で進められている。域外から参加者を呼び込む「地域スポーツ大会・イベントの開催」、国内外の大規模な「スポーツ大会の誘致」、プロチームや大学などの「スポーツ合宿・キャンプの誘致」などが代表的な取組みである。各地でこれらの取組を推進しているのが、地方公共団体とスポーツ団体、観光産業などの民間企業が一体となって組織された地域スポーツコミッションである。

スポーツコミッションは地域のスポーツマーケティングをワンストップで担う、スポーツを通じた地域振興の中心的存在となることが期待されている。

主に、「受け入れ体制の提案」、「積極的なプロモーション活動」をスポーツ団体などに行い、地域経済の活性化のためにスポーツイベント・大会等を誘致する「プロモーター」としての役割を持つ。宿泊や交通、ボランティアスタッフの手配など様々な支援を行う役割についても担っている。本町においても昨年度、スポーツと観光を組み合わせた取組である「スポーツツーリズム」の基本構想が策定され、スポーツによる地域振興という共通する目的に向けて、連携・協力して取り組む受け入れ体制整備が求められている。

3-2. 町内の現状

既存のスポーツコミッション組織の多くでは、観光協会が中心になることが一般的である。ただし、本町には宿泊施設が無く、観光協会が設立したばかりのため、観光協会を中心とした団体を設立することが可能か検討する必要がある。各スポーツ施設の整備が終わるまでに5～6年を想定、それまでに、中長期的に宿泊施設新設の可能性を鑑みながら、役場・観光協会・商工会により、将来的な方向性を定めるよう検討する。

受け入れ体制整備・構築は多角的な取組みであり、ひとつの課では進まないため、庁舎内検討委員会ははじめ、本町役場内の首長部局などとも連携を密にして検討する。

3-3. 課題と今後の方向性

【課題】

- 観光協会の人員・人材不足により体制が未整備である
- 商工会各部との意見の整理がされていない(青年部・意見交換会については実施済)
- 受け入れ体制は観光協会か商工会か主体的に誰が動くのか定まっていない
- スポーツキャンプ・合宿についての誘致計画の作成
- スポーツコミッション推進計画の作成
- 受け入れ体制に参画する各連携先の選定と協力依頼

【今後の方向性】

- 次年度以降、ワンストップでの受け入れ体制を目指して観光協会・商工会とどういった受け入れ体制が構築可能か議論を進めていく
- 令和7年度に協議会設立を目指して、今後は商工会役員、観光協会役員との話し合いを通じ、協議会設立準備期間とする
- 観光協会や商工会の取り組み方は公益性や収益性の視点でも異なる、どのように進めると商工会参加者の事業が潤うのか等を踏まえ、組織の役割や立位置を検討しながら調整していく

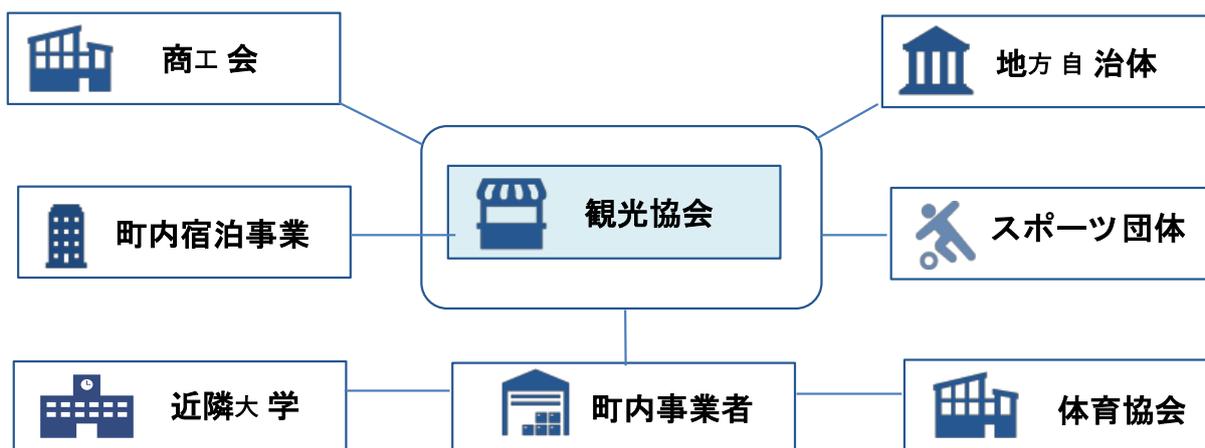
誘致・受け入れを戦略的に進めるために、受け入れ体制の整備に求められる項目は下記である。町内には現在、下記の受け入れ体制を調整する団体がいない状況である。今後は体系だった計画策定が必要である。(第2回検討会議資料抜粋)

対応すべき項目	対応項目の内容
受け入れ体制構築 スポーツコミッション	<ul style="list-style-type: none"> • 各種窓口対応 • 町内企業及び各ステークホルダーとの連携・情報共有
招聘・誘致	<ul style="list-style-type: none"> • 各競技、各スポーツチームとの連携 • 日程調整、キャンプ・合宿の目的の把握
受け入れ	<ul style="list-style-type: none"> • スポーツ施設予約、大会運営や設営 • 審判や警備手配 • 食事の手配(お弁当) • 大会に関わる備品 表彰品手配、パンフレット作成 • 関係者手配 運営・搬入搬出、進行管理、スタッフ他現地人材 • 宿泊施設予約等の配宿手配 • 医療施設の確認、情報共有、トレーナーへの医療体制の紹介等
プロモーション	<ul style="list-style-type: none"> • キャンプ期間以外の町とチームとの連携・情報交換
宿泊・医療施設との連携	<ul style="list-style-type: none"> • 宿泊予約等の配宿対応、医療期間との連携や情報共有

3-4.求められる受け入れ体制

今後、町内関係部局及び関係者において本町の環境を最大限に活かし、スポーツキャンプ・合宿等の誘致の際、町内が連携することで交流人口の拡大、更なるスポーツコンベンションおよびスポーツツーリズム推進に取り組み地域の活性化に繋げることを目的とした際、考えられる受け入れ体制となる体制図は以下を理想とする。

- ・ スポーツコミッションで理想とされる体制



3-5.スポーツコミッション設立に向けてのスケジュール(案)

● 第2回検討会議資料抜粋 | 年度別スケジュール案(図1)

時間軸	年間計画表			
年度当初	R4年度 ・波及効果の調査分析 ・先進事例調査 ・基本計画策定	R5年度 ・町へのチーム招聘(視察) ・定期的な町内の勉強会開催	R6年度 ・受け入れ体制の整備 ・ 協議会設立 ・スポーツ推進計画策定	R7年度 ・チーム誘致 ・野球場共用開始 ・ スポーツコミッション設立
現状	R4年度 ・波及効果の調査分析 ・先進事例調査	R5年度 ・チームの招聘(視察) ・定期的な町内勉強会開催	R6年度 ・受け入れ体制の整備 ・協議会設立準備 ・スポーツ推進計画策定 ・商工会との意見交換	R7年度 ・チーム誘致 ・野球場共用開始 ・ 協議会設立

年度当初、スポーツコミッション設立を数年以内に行う、という方向性であったが、誘致に向けた町のプロモーション活動、協議会設立に向けた準備を進め、R7年度に共用開始となる新野球場を中心とした、具体的なチーム誘致に向けて、R6年度～R7年度を町全体の機運醸成期間として位置付けている。

● 第3回検討会議資料 | 本町の受け入れ体制構築のスケジュール

年	R6 2024						2025						
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	
実施想定	協議会 設立準備		受け入れ体制設立の準備										新 野球場 共用開始
	協議会 出席者の選定		①協議会 準備委員会	②協議会 準備委員会	③協議会 準備委員会	仮 大会開催①						協議会設立	

次年度は協議会設立の準備期間としている。協議会へ参画する団体は、自治体のほか、観光協会、商工会、スポーツ団体、民間企業(宿泊・医療・飲食・サービス業など)が一体となり、準備委員会と題した協議会設立を推進する。

4. 誘致プロモーション活動

4-1. 今後の誘致プロモーション活動

プロスポーツチームの合宿誘致に向けて、町の受け入れ体制が実施する誘致プロモーション活動及び本町の認知度向上についての活動を取りまとめる。町の持つ強みを活用して、スポーツチームと連携する取り組みが以下のように検討可能である。

競技・チーム・連盟	施策例
<ul style="list-style-type: none"> ・サッカー：東京ヴェルディ ・ラグビー：NEC グリーンロケッツ東葛 ・ソフトボール：JD リーグ ・野球：横浜 DeNA ベイスターズ ・東京ヴェルディ・総合型クラブ (16 種目 17 チーム) 	<p>【町外】</p> <p>プロスポーツ会場・ホーム戦におけるブース設置</p> <ul style="list-style-type: none"> ・例：ヴェルディホーム戦@味の素スタジアム * 町の名産品、お土産、農産物の展示即売会など ・例：ベイスターズホーム戦@横浜スタジアム * 冠試合の実施・興行権購入の検討など <p>【町内】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内におけるスポーツ興行、イベント開催 * 新野球場、OPEN 記念大会の開催 * ジュニア世代強化 U18 国際大会開催 * 3x3 大会開催における東京ヴェルディとの協業

今後は、本年度の「今後の戦略的競技」の招聘により得られたチームと関係構築を継続して図りながら、町の様々な情報発信を継続していくことが必要となる。現在、建て替え中である野球場については、魅力的な施設などの意見をいただいた。供用開始となる際には、女子ソフトボールリーグ公式戦を OPEN 記念として実施する案、ジュニア世代強化となる国際大会を実施する案などが意見交換会において、提案があった。。その他、誘致を目指すチームの試合会場での冠イベントや、町の名産品・特産品を設置するなど展示会を実施することも考えられる。

自治体は県外において、表敬訪問を行い継続した交流を行いながら、チーム・団体はチーム情報を地域にアピールする場にするなど、相互連携をしながら、誘致プロモーションを推進する。

4-2. 地域活性化について

- 目的

嘉手納町でスポーツキャンプを実施するチーム・選手・チームのマスコットなどプロパティを活用し、町のプロモーションを効果的に行い、キャンプ時の来訪意欲、キャンプ期間以外のそれも併せて高めることを狙いとする。将来的な町の受け入れ体制、地域の経済団体や関わるステークホルダーと密に連携をとることで、域内に経済効果を波及させる。

- 誘致プロモーション活動・地域活性化における連携

スポーツキャンプ・合宿では、県外から選手・チーム関係者が拠点となる地域で宿泊を行う。経済効果を産業別にみると宿泊費に次いで、ランドリー、飲食、施設利用などを中心に支出する。経済界では町の各企業にとっても販路拡大のチャンスが生まれる事例(以下図参照)もあり、地域事業者へ還元される企画であり、地域のプロモーションになること、地域の機運醸成を図ること、地域の経済効果創出に繋げること等が求められる。

- 各種プロモーション事例

他地域事例 商品項目	那覇市		宮崎市	
商品1	かりゆしウェア		トートバック	
補足	地域の特産物や特色を活かしたご当地グッズづくり・お土産として販売し特産物のプロモーションとする			
商品2	琉球泡盛 ちばりよ〜ジャイアンツ		宮崎焼酎 強くあれ巨人	

取組の内容

うるまマルシェ

 阪神タイガースのキャンペーンに合わせ、うるま市内の飲食店舗へののぼり設置と応援メニューを設置し、うるま市内の店舗のPRを行います。

協力依頼の内容

設置期間：2月（設置場所は検討の上、決定）

① 飲食店へののぼりの設置



昨年度イメージ
今年度イメージ

② 応援メニューの設置



（昨年度イメージ）
各業者用メニュー表及び応援メニューのチラシの作成

URUMACITY X HANSHIN TIGERS



うるま市グルメ
 おすすめのお店で食べたい！
 阪神タイガースのキャンプを記念して飲食店から選りすぐった、キャンプ期間限定のメニューを期間限定で提供する「うるま市グルメ」をご紹介します。うるまグルメとともに阪神キャンプを応援しましょう！

うるま市グルメ
 おすすめのお店で食べたい！
 1. うるま市グルメ
 2. うるま市グルメ
 3. うるま市グルメ
 4. うるま市グルメ
 5. うるま市グルメ
 6. うるま市グルメ
 7. うるま市グルメ
 8. うるま市グルメ
 9. うるま市グルメ
 10. うるま市グルメ

うるま市グルメ
 おすすめのお店で食べたい！
 1. うるま市グルメ
 2. うるま市グルメ
 3. うるま市グルメ
 4. うるま市グルメ
 5. うるま市グルメ
 6. うるま市グルメ
 7. うるま市グルメ
 8. うるま市グルメ
 9. うるま市グルメ
 10. うるま市グルメ

● 町内における地域活性化の活動実績 | ベイスターズ友の会

嘉手納町には「横浜DeNAベイスターズ嘉手納友の会」があり、県外応援ツアー等を実施している。以下はチームを通じた地域活性化における過去の取り組みである。

事業名/年度	2016	2017	2018	2019	2020
横浜DeNAベイスターズ歓迎 セレモニー/日時	2/1	2/1	2/2	2/1	2/1
開催場所	嘉手納町野球場				
横浜DeNAベイスターズ歓迎・感謝の夕べ/日時	2/3	2/2	2/3	2/7	—
開催場所	ラグナガーデンホテル				
横浜DeNAベイスターズ春季 キャンプ/日時	2/1～ 2/26	2/1～ 2/26	2/1～ 2/26	2/1～ 2/26	2/1～ 2/26
開催場所	嘉手納町野球場ほか				
横浜DeNAベイスターズ少年 野球教室/日時	2/11	2/11	2/9	2/11	—
開催場所	嘉手納町野球場				
横浜DeNAベイスターズ選手 との交流給食会/日時	—	2/23	—	2/6	2/6
開催場所		嘉手納中学校		嘉手納中学校	

● ベイスターズ友の会・助成事業報告

事業名/年度	2016	2017	2018	2019	2020
横浜DeNAベイスターズ応援 ツアー	7/5～7/7	6/13～6/15	6/28～6/30	6/1～6/3	—
開催場所/参加者数	横浜スタジアム・ ベイスターズ球場・23名	横浜スタジアム・ベ イスターズ球場・10名	横浜スタジアム・ 横須賀スタジアム・18名	横浜スタジア ム・横須賀スタ ジアム・32名	—
横浜DeNAベイスターズ軟 式野球大会/参加チ ーム	11/14～ 11/22・14チ ーム	10/30～11/9 16チーム	12/1～12/2、8 16チーム	10/5～11/8	—
開催場所	嘉手納町野球場				
横浜DeNAベイスターズ杯 キッズ野球大会/参加 チーム	11/26～ 11/27・ 14チーム	11/26,12/3,12/4 16チーム	12/1～12/2、8 16チーム	11/30～ 12/1 16チーム	11/28～ 11/29 16チ ーム
開催場所	嘉手納町総合運動場、ソフトボール場				

・ 各種プロモーション事例と期待できる効果

分類	施策例	効果
①飲食店・連携企画	<ul style="list-style-type: none"> ・応援メニュー開発 ・クーポンの発行 ・キャンプ期間中の店内外装飾 ・キャンプ期間中の球場への出展 	市内還元
②観光地・連携企画	<ul style="list-style-type: none"> ・観光地と連携・協力しマスコットやチームのイメージカラーを使用した装飾を設置 	機運醸成 市内還元
③メディア・SNS活用・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・チームが掲載されるメディアや SNS と連携しチームのファンへとキャンプ地を認知してもらう、町内、県内からも誘客を図る 	機運醸成 市内還元
④インフルエンサー・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・インフルエンサーと連携し SNS やイベントでのプロモーションを実施し町を PR する 	地域連携 市内還元
⑤チーム応援・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・チームのファンが現地を訪れた際、歓迎されていること、町がチームを応援しているというイメージを定着させる 	機運醸成

観光は観光客だけに向けたものではなく、地域を良くする、元気にするという一つの手段である。そのため、観光を主軸とした地域づくりを推進するにあたっては、行政、事業者、地域団体、町民が同じ方向を向いて、地域が一丸となり観光地域づくりに取り組むことが必要である。(引用):「第二次嘉手納町観光振興基本計画」基本方針1.みんなでとりくむ観光地域づくり

上記各種プロモーションにおいても町内事業者や地域団体、町民の協力が必要になる。さらに、現在の嘉手納町は、通過型の観光が主流となっており、少しでも長く嘉手納町に滞在してもらい、嘉手納町を通過地点ではなく、目的地としてもらうために、今後、様々なプロモーションに取り組むことが求められる。キャンプ・合宿期間中だけではなく、期間外においても同様である。これらの取り組みはチーム側にとっても、ファン獲得、競技普及や競技振興となるメリットがある。本町においてもチームへのプロモーション活動を実施する際、期待できる効果の可能性をチームと共に創出しながら、誘致活動を実施し、地域の活性化を狙っていく。

- サッカーチームのキャンプ・合宿誘致の可能性
- サッカーチーム選定の背景

Jリーグは2026年から2027年にかけてのシーズンからリーグ戦を秋からの開催とする「秋春制」に移行することを正式に決定している。現在は2月ごろに開幕して12月ごろにシーズンを終える日程でリーグ戦を行っているが、シーズン移行により、8月頃に開幕、5月ごろにかけてシーズンをおえる日程でリーグ戦を開催する。また、降雪地域のクラブ対応として、冬期の12月頃から2月頃までの約2か月間を「ウインターブレイク」としてリーグ戦の休止期間を設けるシーズン移行の方針決定がある。



- シーズン移行により予想されるニーズ
- 2月開幕→8月開幕
冬→夏キャンプ(6月-8月)急増の可能性
- ウィンターブレイク期間(12月-2月)中の活動拠点のニーズ増加の可能性

上記により、サッカーキャンプ誘致には各自治体により2極化する可能性がある。今年度事業において、東京をホームタウンとする東京ヴェルディを招聘した。東京ヴェルディは2024シーズンから16年ぶりにJ1へ昇格しており、注目度の高いチームである。また2015年～6年間西原町でキャンプを実施した実績がある。2023-2024シーズンは2年ぶりに県内(八重瀬町・中頭郡中城村)でキャンプを実施。チームは今後の拠点を探索中である。

東京ヴェルディ

設立: 1969年

法人名: 東京ヴェルディ株式会社 | 親会社: ゼビオホールディングス株式会社

クラブ所在地: 〒206-0812 東京都稲城市矢野口 4015-1

活動区域/ホームタウン: 東京都(出資協定エリア: 日野市、立川市、稲城市、多摩市)



- サッカーチームのキャンプ・合宿誘致を通じた地域活性化

東京ヴェルディはJリーグ・サッカーだけではなく、総合型クラブを目指し、現在は16種目17チームのクラブチームを複合的に保有する。以下は種目の詳細である。

バレーボール	スケートボード	フットゴルフ	ビーチサッカー	サッカー
女子サッカー	フットサル	野球	3x3	セパタクロー
チアダンス	トライアスロン	eスポーツ	ゴルフ	ビーチバレー
ホッケー				

親会社であるゼビオホールディングスの関係から、スポーツを通じた町づくりに興味・関心が高く、町民への健康保持増進や指導者向け養成プログラム、サッカー教室など、既存の施設を活用しながら、チームと連携し、キャンプ・合宿のみではなく、ソフト面において、人材創出につながるチームである。

ゼビオホールディングス

設立: 1973年

法人名: ゼビオホールディングス株式会社 (XEBIO HOLDINGS CO.,LTD)



クラブ所在地: 〒206-0812 〒963-8024 福島県郡山市朝日三丁目7番35号

事業領域: ①オールスポーツ②ゴルフ③レジャーアウトドア④ファッション⑤スポーツメカネ
⑥コンディショニングサポート⑦スポーツ振興事業 ⑧店舗開発

ゼビオグループは小売店の他、複数の事業領域を保有し、スポーツマーケティング、アリーナの指定管理、3人制バスケットボールの大会誘致や開催など、様々なスポーツの価値を活用して地域との連携を深めている企業である。本町として、ゼビオグループとの連携によりスポーツを通じたまちづくりについて、施設改修と連動した点においても可能性の高いチームである。本町として、誘致プロモーション活動について、東京ヴェルディ、ゼビオグループとの連携を推進する。

● 東京における情報発信

出資協定地域	日野市	立川市	稲城市	多摩市
人口	190,747人	184,266人	94,107人	145,873人
連携協定地域	北区	板橋区	足立区	杉並区
人口	352,925人	580,746人	692,322人	586,102人



チームの上記ホームタウンエリアは嘉手納町のプロモーション・情報発信の機会である。

4-3. 今後の検討事項

● 周辺地域連携の可能性

今後、嘉手納町における各スポーツ施設は建て替え中の野球場をはじめ、改修・改良が進められ環境面は向上していくものの、現状のスポーツ施設及び宿泊施設では、短期的には実現可能なスポーツコンベンション・スポーツツーリズムの規模は限定的なものとなり、高い経済効果やそれら波及効果を齎すことは困難である。ここでは、隣接自治体である「読谷村」と横浜 DeNA ベイスターズが1軍キャンプを張る「宜野湾市」との連携の可能性と模索する。

・ 読谷村

隣接する読谷村では、平成30年度に策定された「読谷村ゆたさむらビジョン」の重点施策を踏まえ、「スポーツキャンプ地 読谷村」が新たなブランドとなるよう国内外に幅広くPRするとともにキャンプ誘致ならびに誘客を通して、観光振興や地域活性化に取り組んでいる。近年では、野球(中日ドラゴンズ2軍)やサッカー(サガン鳥栖・Vファーレン長崎)、ソフトボールやラグビー(リコーブラックラムズ東京・トヨタヴェルブリッツ等)、陸上競技といった多様な種目のキャンプを受け入れている。また、嘉手納町とは図書館の相互利用など、行政間の連携関係も深い。

目的	
連携によりスポーツ産業の経済波及効果最大化	
➢ 両自治体保有のスポーツ施設・宿泊施設・観光施設等を柔軟に活用・連携によりシナジー効果を生み出し、価値創造と充実したスポーツ環境を整備	
背景	
読谷村	
・ 国際大会を含め各競技のキャンプ・合宿の受入実績	
・ 優れたスポーツ施設に加え充実した宿泊施設所在	
嘉手納町	
・ 各スポーツ施設の改修・整備が進行中	
・ スポーツコンベンション推進(昨年基本計画策定)	
・ 宿泊施設が限定的(小規模で団体受入が困難)	
ポイント	
・ キャンプ・合宿誘致において、単独事業と比べ優れたスポーツ環境となり両自治体にとりメリット	
・ 既にある両自治体間における連携関係の強化	
・ 池武当IC新設は誘致・誘客における絶好の機会	

新設ICとして新規事業化が決定。読谷村・嘉手納町とも沖縄自動車道からのアクセスが大幅に向上

特に読谷村は豊富な宿泊施設を有し(後述)嘉手納町とのアクセスも良好(20分程度)なことから、嘉手納町のスポーツコンベンションを推進する上で、読谷村の宿泊施設を活用できることは肝要である。また、両自治体が同一競技複数チームを誘致できれば、キャンプ・合宿期間中にトレーニングマッチが組めるなど、単独での誘致に比べ価値を生み出しやすい。読谷村側も嘉手納町とのこれら連携については前向きに捉えている。

(令和5年11月28日読谷村商工観光課と打合せ)

・ 宜野湾市

宜野湾市はプロ野球横浜 DeNA ベイスターズ 1 軍のキャンプ受け入れ先であり、前身の横浜大洋ホエールズ時代の 1987 年からと 40 年近い歴史がある。地域と球団の連携は深く、キャンプ実施に伴い、歓迎式・キャンプ激励・歓迎のタベ・少年野球大会・野球教室等を開催している。また、宜野湾市の少年野球チームは横浜市中心区の少年野球チームと交流を図っていることや、宜野湾市や市の連携企業/団体、「横浜DeNAベイスターズ宜野湾友の会」が横浜スタジアムへ年一回の応援表敬ツアー等も行っている。

県内の取り組み事例（宜野湾市）

- ・ 応援ツアー & パンフレット配布
5/13(金)~14日(土)応援ツアー及び球団表敬訪問
5/14は史上最多観客動員数:3万2463人を達成
横浜スタジアムにて宜野湾市の観光パンフレット配布
- ・ 2022春季キャンプ 激励式
松川宜野湾市長が代表して、三浦大輔監督へ贈呈
(以下贈呈企業一覧)
- ・ 横浜市、宜野湾市の「ふるさと納税」返礼品に
横浜DeNAベイスターズグッズ、両市の「ふるさと納税」
の返礼品として横浜DeNAベイスターズ公式グッズが登場

横浜DeNAベイスターズ応援表敬ツアー

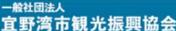



横浜DeNAベイスターズ
宜野湾キャンプオリジナルグッズセット

県内の連携企業/団体

横浜DeNAベイスターズ宜野湾友の会
はごろもPM/パートナーズ、宜野湾市飲食業組合
浦添宜野湾漁業協同組合、株式会社野高商会
株式会社ジミー、沖縄県出店事業協同組合
オリオンビール株式会社、石垣牛専門焼肉金城
霧島酒造株式会社、宜野湾青年連合会

 宜野湾市 Ginowan City
  宜野湾市商工会

 一般社団法人 宜野湾市観光振興協会
  JAおきなわ

宜野湾友の会 会員専用グッズ



宜野湾友の会 歓迎感謝のタベ

嘉手納町にも「横浜DeNAベイスターズ嘉手納友の会」があり、県外応援ツアー等(前述: ベイスターズ友の会・助成事業報告)を開催しているが、横浜DeNAベイスターズを軸にした連携を嘉手納町と宜野湾市にてより強固にすることで、シナジー効果を発揮し両自治体にとって高い経済波及効果を齎すと期待する。1 軍・2 軍キャンプ地の相互誘客企画(スタンプラリー等)や、キャンプ期間以外には両自治体の特産品を用いた商品開発、オリジナルグッズ制作など多様な施策が考えられる。宜野湾市と“ベイスターズ”というキラーコンテンツを最大限活かした連携により、価値創造が図れると考える。



沖縄県内のプロ野球キャンプ地をめぐって
プレゼントをGETしよう




2023年2月、8000人以上の
プロ野球キャンプファンが参加した
初のイベントが成功した

2024年は、両球団キャンプ地を巡り、ハイアウェイ
スタンプラリーを開催してオリジナルステッカーや
思いのプレゼントをゲットしよう!

開催期間
2024年2月1日(木)~2月29日(木)



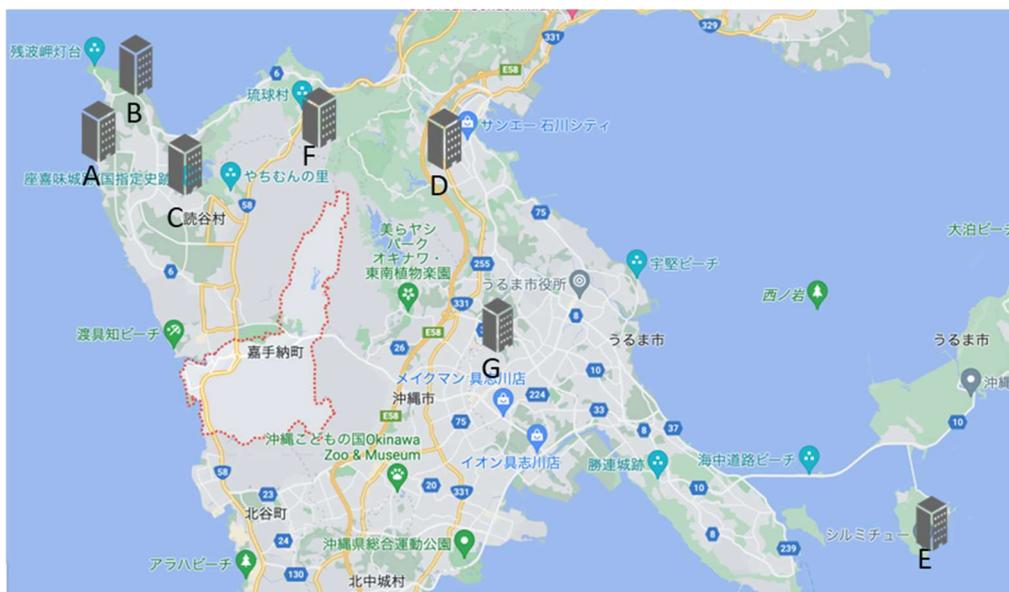
オキナワプロキャン2024
スタンプ13 オリジナルステッカー 1枚

(参考: 沖縄県内プロ野球キャンプ地スタンプラリー・2024年2月沖縄県実施事業)

周辺地域の宿泊施設

・ 読谷村エリア・うるま市エリア

読谷村には西海岸沿いに大型リゾートホテル、うるま市には比較的小規模ホテルが所在する。



● 読谷村エリア

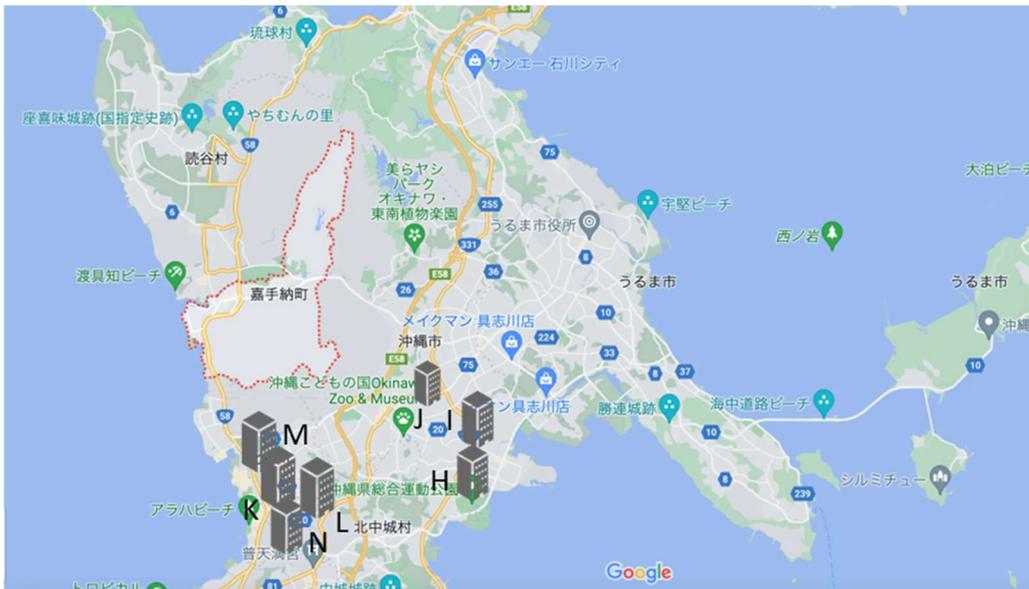
宿泊施設名	部屋数	那覇空港→	嘉手納→
A.ホテル日航アリビラ	洋室:397室	国道58号線経由 約70分	約20分
B.ロイヤルホテル 沖縄残波岬	洋室:414室 和室:40室	国道58号線経由 那覇IC～石川IC 約70分	約20分
C.グランディスタイル 沖縄 読谷 ホテル&リゾート	洋室:54室	国道58号線経由 約70分 那覇IC～石川IC ,沖縄北IC	約20分

● うるま市エリア

宿泊施設名	部屋数	那覇空港→	嘉手納→
D.ココガーデンリゾートオキナワ	洋室:96室	那覇IC～石川IC 約1時間	約20分
E.ホテル浜比嘉島リゾート	洋室:29室	那覇空港～沖縄北～ 海中道路 約1時間	約40分
F.アンサ沖縄リゾート	洋室:123室	那覇IC～石川IC 約1時間	約25分
G.春日観光ホテル	洋室:47室	那覇IC～沖縄北IC 約1時間	約15分

・ 沖縄市エリア・北谷町エリア

沖縄市には幹線道路沿いや繁華街にビジネスホテルが多い傾向、北谷町には西海岸の人気観光地アメリカンビレッジ(商業エリア)内に外資系含め大型リゾートホテルが密集し立地している。



● 沖縄市エリア

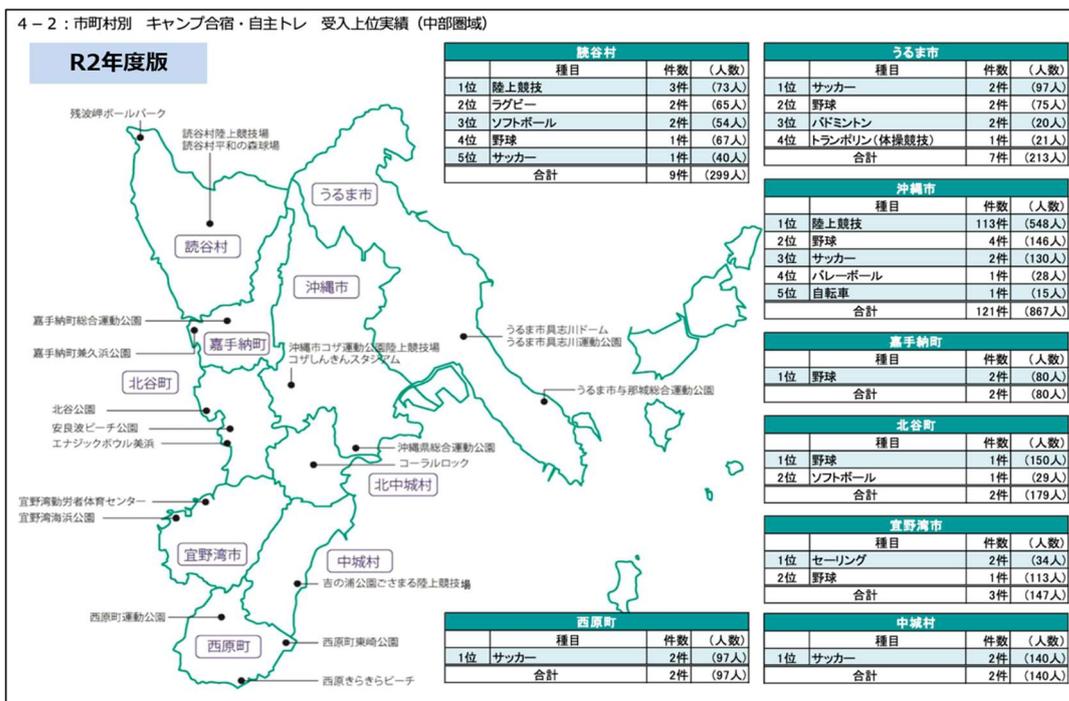
宿泊施設名	部屋数	那覇空港→	嘉手納→
H.ライカム クリスタル ホテル	洋室:40室	那覇IC～沖縄南IC 下車 約50分	約20分
I.オキナワ グランメールリゾート	洋室:260室 和室:40室	那覇IC～北中城IC下車 約50分	約20分
J.サンライズ観光ホテル	洋室:29室	那覇IC～沖縄南IC 下車 約50分	約20分

● 北谷町エリア

宿泊施設名	部屋数	那覇空港→	嘉手納→
K.ダブルツリーbyヒルトン沖縄北谷	洋室:160 室	那覇IC～沖縄南IC 下車 約40分	約15分
L.レクー沖縄北谷スパ & リゾート	洋室:229 室	那覇IC～沖縄南IC 下車 約40分 商業施設デポアイランド内	約15分
M.ヒルトン沖縄北谷リゾート	洋室:346 室	那覇IC～沖縄南IC 下車 約40分	約15分
N.ザ・ビーチタワー沖縄	洋室:280室	那覇IC～沖縄南IC 下車 約40分	約20分

● 周辺地域のスポーツ施設

嘉手納町の周辺地域には以下の通り多種多様なスポーツ施設が所在。各自治体にて積極的にスポーツコンベンションを推進しており、“スポーツによる地方創生・まちづくり”に取り組んでいる。



・ 北谷町(人口 29,005 人/12,848 世帯)

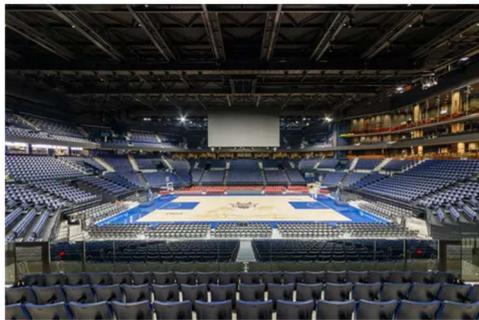
施設名	Agreスタジアム北谷（北谷公園野球場）	Agreドーム北谷（北谷公園屋内運動場）
種目	野球(硬式)/野球(軟式)/ソフトボール	フットサル/バレーボール
収容人数	11,000人	-
施設詳細	両翼98m・中堅122m、天然芝、ラバーフェンス	面積3,747㎡、フットサル2面、バレーボール2面
附帯設備	駐車場/シャワールーム/更衣室/ブルベン/救護室	駐車場/シャワールーム/更衣室/AED
キャンプ受入等実績	中日ドラゴンズ（プロ野球）キャンプ等	中日ドラゴンズ（プロ野球）キャンプ等
写真		

・ 読谷村(人口 42,018 人/17,655 世帯)

施設名	ZANPAプレミアム残波岬ボールパーク	読谷村陸上競技場
種目	サッカー/ラグビー	陸上競技/サッカー/ラグビー/フットサル
収容人数	675人	3,514人
施設詳細	天然芝フィールド1面(9,800㎡・114m×75m) ラグビーHゴール7m	400m×8レーン、天然芝フィールド(106m×70m) 投てき、跳躍、ラグビーHゴール13m等
附帯設備	駐車場/シャワールーム/更衣室/会議室/救護室等	駐車場/シャワールーム/更衣室/会議室/救護室等
キャンプ 受入等実績	サガン鳥栖 (Jリーグ) キャンプ トヨタヴェルブリッツ (ラグビー) キャンプ等	V ファーレン長崎 (Jリーグ) キャンプ等
写真		

施設名	オキハム読谷平和の森球場	ゆんたんざソフトボール場
種目	野球(硬式)/野球(軟式)/ソフトボール	野球(軟式)/ソフトボール
収容人数	5,800人	120人
施設詳細	両翼98m・中堅120m、天然芝、ラバーフェンス	面積19,531㎡、メイングラウンド両翼76.2m、 サブ両翼68.58m、ソフトボール・軟式野球2面
附帯設備	駐車場/シャワールーム/更衣室/会議室/ブルベン等	駐車場/AED
キャンプ 受入等実績	中日ドラゴンズファーム (プロ野球) キャンプ ソフトボール女子日本代表キャンプ等	(2021年完成)
写真		

・ 沖縄市(人口 142,351 人/66,054 世帯)

施設名	沖縄アリーナ	コザしんきんスタジアム(沖縄市野球場)
種目	テニス/バレーボール/バスケットボール その他の競技	野球(硬式)/野球(軟式)/ソフトボール
収容人数	10,000人	15,260人
施設詳細	[メインアリーナ] 床面積約2,600㎡、バスケ1面分 [サブアリーナ] 床面積約860㎡、バスケ1面分	両翼100m・中堅122m、天然芝、ラバーフェンス
附帯設備	駐車場/シャワールーム/更衣室/会議室/救護室等	駐車場/シャワールーム/更衣室/会議室/ブルペン等
キャンプ 受入等実績	FIBAバスケットボールワールドカップ2023開催 琉球ゴールデンキングス(ホームアリーナ)等	広島東洋カープ(プロ野球)キャンプ等
写真		

施設名	タピック県総ひやごんスタジアム	沖縄市陸上競技場
種目	陸上競技/サッカー	陸上競技/サッカー/ラグビー
収容人数	15,306人(芝生スタンド含む)	13,400人
施設詳細	第1種公認、400m×8レーン、天然芝フィールド、 投てき、跳躍、3,000m障害用設備等	第2種公認、400m×8レーン、天然芝フィールド、 投てき、跳躍、3,000m障害用設備等
附帯設備	駐車場/シャワールーム/更衣室/会議室/救護室等	駐車場/シャワールーム/更衣室/会議室/ブルペン等
キャンプ 受入等実績	FC琉球(ホームスタジアム)、 アルビレックス新潟(Jリーグ) キャンプ等	-
写真		

・ うるま市(人口 126,023 人/56,363 世帯)

施設名	うるま市具志川野球場	うるま市具志川ドーム
種目	野球(硬式)/野球(軟式)/ソフトボール	フットサル/武道/相撲
収容人数	4,300人	-
施設詳細	両翼94m・中堅120m、天然芝、ワイヤーフェンス	面積3,600㎡、フットサル2面、相撲稽古場
附帯設備	駐車場/シャワールーム/更衣室/会議室/ブルベン等	駐車場/シャワールーム/更衣室/会議室等
キャンプ受入等実績	阪神タイガースファーム(プロ野球) キャンプ等	大相撲沖縄場所(冬巡業)開催 阪神タイガースファーム(プロ野球) キャンプ等
写真		

施設名	うるま市具志川多種目球技場	エナジックスタジアム石川(うるま市石川野球場)
種目	サッカー/ラグビー	野球(硬式)/野球(軟式)/ソフトボール
収容人数	-	4,006人
施設詳細	天然芝フィールド2面・クラブハウス (Aコート:105m×68m/Bコート:100m×68m)	両翼97m・中堅124m、天然芝、ラバーフェンス
附帯設備	駐車場/シャワールーム/更衣室/会議室/救護室等	駐車場/シャワールーム/更衣室/会議室/救護室等
キャンプ受入等実績	FC町田ゼルビアFC(Jリーグ) キャンプ 栃木SC(Jリーグ) キャンプ等	サムスンライオンズ(韓国プロ野球) キャンプ等
写真		

(参考:公益財団法人 沖縄県スポーツ協会 HP)

- 近隣市町村のキャンプ、合宿受入れ情報と動向
- 北谷町×中日ドラゴンズの取組み

北谷町は、プロ野球中日ドラゴンズとスポーツ振興を基軸とした活力ある個性豊かなまちづくりを推進することを目的とする包括連携協定を令和5年11月に締結した。沖縄県内自治体がプロスポーツチームと連携協定を締結するのは初めてであり、スポーツや観光振興、町と球団がコラボした特産品の開発・販売などを展開するとしている。



北谷町での中日ドラゴンズのキャンプは1990年代より約30年に渡り実施、球団はキャンプ期間中に少年野球教室などを通じて地元と交流を深めており、協定では子どもたちの健全育成に今後も協力するとしている。

(参考: 沖縄タイムス 2023年11月26日付)